

## 第2節 優れた環境人財の育成

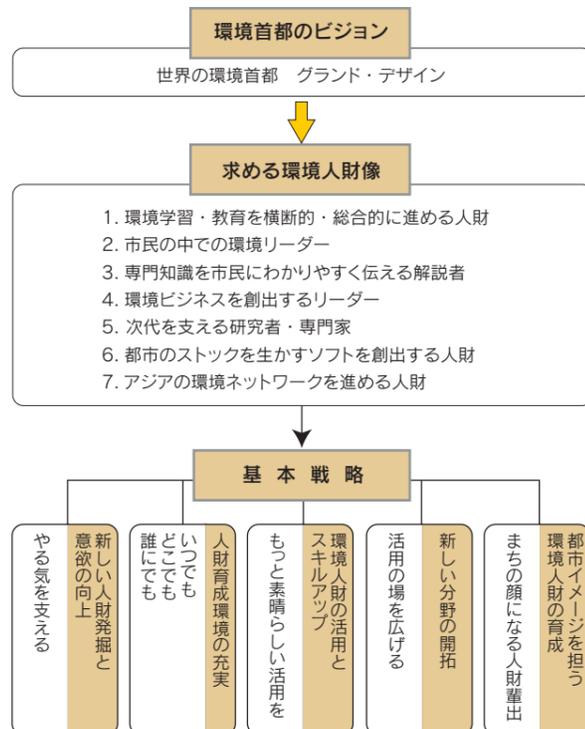
本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も大きく重要な財産であると考え、「人財」育成の取組をすすめてきました。とりわけ、環境問題を解決していくためには、一人ひとりが環境との関わりについて理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習の必要性はますます高くなっています。そのため、学校、家庭、地域などの様々な機会、場での環境教育・環境学習の更なる充実を図り、子どもから高齢者まであらゆる世代の環境人財が育成されるとともに、本市にある教育・研究機関等の施設群を活用し専門的かつ実践的な知見を身につけ、国内外で活躍するような人財を育成します。

### 1. 北九州市環境人財育成総合計画の推進

本計画は、「世界の環境首都グランド・デザイン」を受け、平成18年10月に今後5年間の環境人財育成が効果的かつ適切に実施されることを目的とし策定しました。環境意識が世界一高い市民になるために、これからの社会で目指すべき人財像とその課題を抽出し、北九州市独自の環境人財育成の効果的・総合的な推進を目指しています。

本計画においては、人財育成のための施策の重点化と優先順位を設定し、育成の効率化と実効性を高めるとともに、人財育成に携わるすべての関係者の連携と調整を図ることとしています。

#### ◆北九州市環境人財育成総合計画 全体図



### 2. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

環境首都を目指す本市に、市民のための本格的な環境学習・活動交流の総合拠点となる「北九州市環境ミュージアム」を平成14年4月6日に八幡東区東田に開設しました。

館内には、北九州市の公害克服の歴史やさまざまな地球環境問題、それを防止するための環境技術、環境に優しいエコハウスのモデルなどを展示しており、これらを施設インテプリターが詳しく紹介しています。また、市民ボランティアである環境学習サポーターが、身近なものに感じられ、楽しく学ぶことができる環境学習の場を提供しています。

また、館内には情報ライブラリを設置し、書籍約4,000冊・ビデオ約260本などを揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っており、学校の授業など各種の環境教育に活用されています。

平成20年度の利用者数は、126,330人でした。  
(環境ミュージアムHPアドレス <http://eco-museum.com/>)

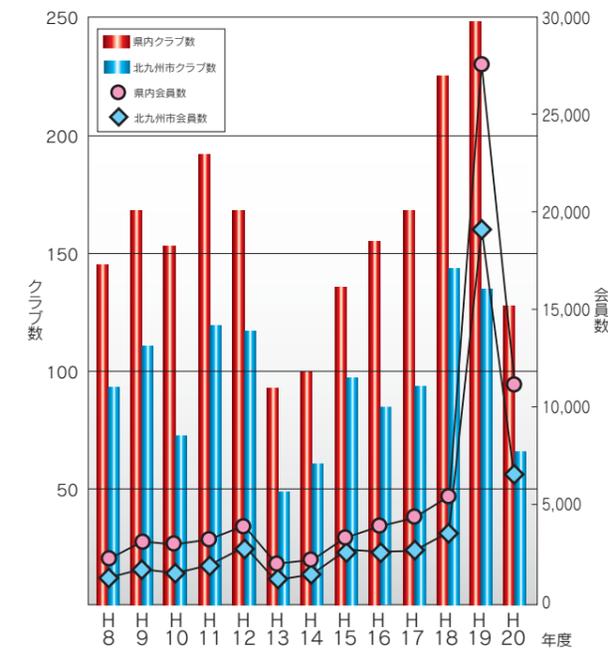
### 3. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。主な支援内容は、環境活動に関する教材や情報の提供、交流と学習を兼ねた宿泊交流会の開催やその指導者「サポーター」を育成するための研修会の実施などです。

平成20年度65クラブ、6,610名の幼児から高校生が活動し、市内の多くの子どもたちの自主的な環境活動が促進されました。

北九州子どもエコクラブは、創設以来会員数が常に全国上位であり、クラブ同士の交流やサポーターの育成に力を入れている点が評価され、平成17年3月に行われた子どもエコクラブ全国フェスティバルにおいて、環境大臣

から感謝状を授与されました。また、平成20年3月にはその全国フェスティバルが北九州市で開催されました。



### 4. 環境教育副読本による環境学習の推進

環境について学ぶ総合的学習プログラムに基づいて、幼児から中学生までそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を平成12年度から作成し、平成14年度に幼児用、小学校低学年・中学年・高学年用及び中学生用の5段階シリーズ化が完成しました。平成15年度は、小学生用副読本の教師用指導書3種類と、幼児用の大型環境絵本を作成、平成16年度は、幼児用絵本の点字本と音声CDセットを作成し、さらに小学校低学年用副読本を大きく改訂しました。平成17年度は、小学校高学年用の別冊資料とし

| 幼児用  | コスモスほしからきたベルル(環境絵本)<br>(汎用版及び大型判、点字本と音声CDセット) |                                    |
|------|---|------------------------------------|
| 小学生用 | 低学年   | 地球はみんなのおともだち                       |
|      | 中学年   | もっと知りたいみんなの地球                      |
|      | 高学年   | みんなで守ろうきれいな地球<br>別冊公害克服編「青い空を見上げて」 |
| 中学生用 | 未来につなごうゆたかな地球                                 |                                    |

て、環境学習サポーターの皆さんが語り継ぐ公害克服の体験紙芝居「青い空を見上げて」を発行しました。平成18年度は、本市のごみ収集制度について、全ての学年で学習できる内容に改訂し、教育現場で総合的な学習などの教材に積極的に活用されています。

### 5. 九州環境技術創造道場

#### (1) 概要

本市では、「世界の環境首都」づくりの一環として、優れた環境人財の創出を目的とする「九州環境技術創造道場」を実施しています。

本道場で育成する人財は、環境、特に廃棄物分野での幅広かつ実務的な専門知識を有する気概のある技術者です。受講後は主として九州地域ひいてはアジアの廃棄物問題の総合的な技術者、環境ビジネスのリーダーとしての活躍を期待しています。

講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の大学・民間企業等の技術者を招き、主に最終処分場について国内外の最先端の情報を取り入れた講義を実施しています。

また、講義のみの知識偏重教育ではなく、講師・受講生の双方向での討議・交流を実現するため、講師陣と寝食をともにする合宿形式を採用しています。

#### (2) これまでの取組

九州環境技術創造道場は、平成16年度から毎年開催され、平成20年度までに民間・行政からの受講生110名が修了しています。道場修了後も、受講生による新聞(九州環境技術創造道場新聞)の発行など、講師・受講生間で相互交流が継続しています。

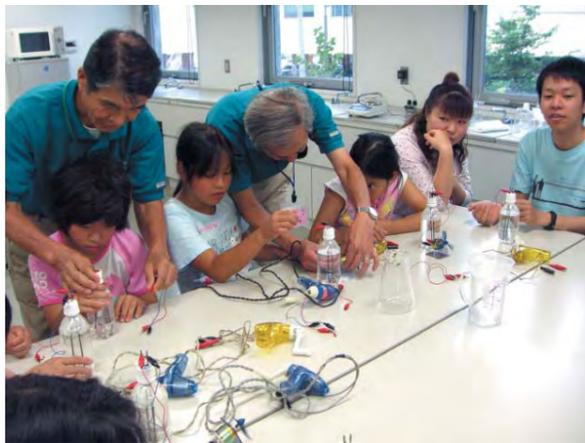


6. 環境学習サポーター

環境学習サポーターは、環境ミュージアムを拠点とする館内外の市内全域で、市民の環境意識を高め、環境学習・環境活動の活性化を図るために、環境学習や環境活動をサポートする市民ボランティアです。環境に関する知識や環境学習の指導者としての技術習得のための研修を毎月実施しています。

これまで、“燃料電池実験”“酸性雨実験”といった環境科学実験や“地球温暖化三択クイズ”“エコラベルピンゴ”といったクイズ形式など、様々なテーマを種々の体験型形式で活動を行い、市民の環境問題に対する意識向上の手助けをしています。また、これらの環境教育プログラムを、小学校や市民センターなどでも“出張環境ミュージアム”ということで企画し、環境学習や活動のサポートをしています。その他にも、ごみ処理工場や浄化センターなどのガイドを行うなど北九州市全域で幅広く活躍し、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進しています。

平成 20 年度の環境学習サポーター数は 80 名で、活動日数は 324 日、延べ活動人数は 2,919 人でした。



7. 北九州市自然環境サポーターの育成

平成 17 年 9 月に策定した「北九州市自然環境保全基本計画」の 5 つのリーディングプロジェクトの一つとして「自然に精通した人材（北九州市自然環境サポーター）の育成」をあげており、北九州市自然環境サポーターの育成を図ることを目的として養成講座を実施しています。

自然環境サポーターとは、自然に対する正しい知識や、自然との上手なつき合い方などを習得した自然分野での市民応援団のことで、平成 17 年度から開始した養成講座の修了生をいいます。

現在、第 1 期（56 名）、第 2 期（37 名）及び第 3 期（66 名）のサポーターの方々が、北九州市の自然のフィールドで様々な活動をしています。

また平成 20 年度は、第 1 期生から第 3 期生のレベルアップを図るため、ステップアップ講座として「里山保全活動コース」と「エコツアーガイド養成コース」を開講しました。

「里山保全活動コース」では、小倉南区中谷地区の魅力を PR するため「ウォーキングマップ・中谷」を作成したほか、荒廃竹林での植樹や先進地（山村塾）への視察などを実施しました。

【エコツアーガイド養成コースについての詳細→ 127 ページ（エコツアービジターインダストリー）】



荒廃竹林での植樹活動



マップの作成風景

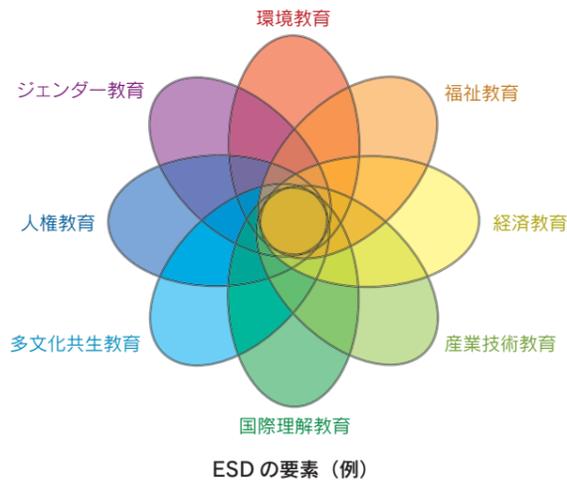


ウォーキングマップ・中谷

8. 「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進と国連大学・地域拠点（RCE）の認定

(1) 持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)

持続可能な社会を実現するための教育で、環境教育、人権教育など、幅広い教育を総合的に進めるものです。また、教育は、学校のみならず、家庭、社会、職場などで、また、こどもからおとなまでを対象にしています。一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また、環境との関係の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育です。



(2) 本市が目指す ESD

本市は、「世界の環境首都」を目指しており、それは「持続可能な社会」を構築することです。北九州市の ESD はまさに、環境首都づくりのための教育であり、その推進のために、2006 年 9 月、市民・NPO、学校、企業、行政等から構成された（加盟団体 60 団体、2008 年 6 月現在）「北九州 ESD 協議会」が設立されました。

多様な教育を結び付けていくとともに、その中に「持続可能な開発」の考え方を取り入れ、活動の愛称である「未来パレット」を活用し、市民への啓発を進めていきます。

平成 20 年度の活動は下記のとおりです。

- 啓発用リーフレット等の作成
- パイロット・プロジェクト事業の実施（シニアネット北九州「食の循環社会体験プロジェクト」）
- ESD 学習会
- 出前講演
- 国内外との連携
  - 7月 RCEバルセロナ会議
  - 10月 ESD国際フォーラム2008（韓国トンヨン）
  - 7月 アジアESD・RCE若者会議in仙台



北九州における ESD 活動のニックネーム



活動報告会の様子



プロジェクトチームミーティング



第 4 回学習会の様子

(3) 国連大学・地域拠点（RCE）の認定

2006 年 12 月に本市は、国連大学が全世界で進めている ESD 推進のための「地域拠点 (Regional Centre for Expertise: RCE)」に、世界 22 地域とともに認定されました。本市の ESD を促進するとともに、国際的な社会との情報の共有や連携を促進しています。

### 第3節 環境情報の共有と発信

本市では、地域コミュニティ活動や自然環境の保全活動、ものづくりの経験などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、ネットワークづくりも進められています。

今後、市民をはじめとするあらゆる主体が多様な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信していくため、情報共有・発信・交流の基盤づくりを進めていく必要があります。また、本市における環境に関する取組を市内外ひいては国内外に、広く発信し、情報の共有化を図るとともに、その情報をもとに多くの人々が訪れるような本市のセールスポイントの効果的な発信を積極的に行っていきます。

#### 1. 世界の環境首都創造に向けた情報発信

環境首都づくりに係る取組や成果をインターネットによる環境情報ポータルサイト「エコライフネット」や、環境首都レポートの作成等により効率的に集約し、環境情報を積極的に受発信できる交流の場を構築しています。

また、マス・メディア、インターネット、関係機関のニュースレター等や様々な媒体を利用し、関係組織・機関との連携・協力により、市内はもちろんのこと国内外へ積極的にかつ組織的に情報発信します。

#### ○「エコライフネット」について

北九州市の環境情報をすべて網羅したポータルサイトのことで、運営(管理)主体は、行政ではなく、民間ベースで行っているにもかかわらず利益追求を目的としないため、情報提供者は、行政、企業、大学、NPO、市民団体まで幅広くなっています。また、提供される情報も、最新の行政、大学、企業の取組や市民活動の日程に至るまで、市民にわかりやすい言葉で環境に関する情報を発信しています。

- ・エコライフネットの管理・運営：北九州エコライフステージ実行委員会事務局
- ・外部リンク：北九州エコタウン、環境ミュージアム、北九州市エコライフプラザの各HP



エコライフネットのトップページ  
<http://www.ecolife-net.jp/>

#### ○ 環境首都レポートについて

市内の企業、大学、市民団体及び行政等の優れた環境活動(環境首都)に関する情報を広く伝える手段として、冊子にまとめ市内外に情報発信するものです。

今年度で、4回目の製作になりますが、毎回、取材対象先に伺い新たな情報を収集しています。また、取材後は、その取組や成果、課題について分析し、「世界の環境首都のグランドデザイン」にある「北九州市民環境行動10原則」に沿って整理し、環境首都づくりの取組の進捗を一目で分かるようにしています。

このレポートの特徴は、環境首都づくりについての外部評価として、早稲田大学環境首都リサーチセンターの評価を掲載し、できる限り客観的な環境首都づくりの進捗評価を行っていることです。

さらに、国内のマスコミ、コンサルタント会社およそ300社に冊子を送り、「世界の環境首都・北九州市」をPRしています。



#### 2. あらゆる主体による環境政策への参加の推進

環境問題の現状、課題、取組等に係る環境情報を誰でも容易に入手できる体制を整備し、環境行政のあらゆる過程において、市民・NPO、事業者、行政が連携・協働し、知恵を持ち寄り、共に考え、行動し、成果を検証するなど環境政策への参加を一層進めます。

#### (1) 北九州市環境モデル都市地域推進会議

本市の環境モデル都市に関する取組を、市民・NPO・産業界・学術機関が一体となり、総合的かつ効果的に進めていくことを目的としています。

本会議では、環境モデル都市に関わる情報の発信や、事業の推進、進捗状況の検証などを主な活動とし、登録

を行っている約360の団体・事業所・個人等で構成されています。

平成20年9月に、北九州市衛生総連合会、北九州市女性団体連絡会議、環境市民活動サポートセンター、北九州青年会議所、北九州活性化協議会、北九州産業学術推進機構、北九州商工会議所、北九州市の産学官民8者を発起人とした「北九州市環境モデル都市地域推進会議」を発足し、現在は、連合福岡北九州地域協議会も加わり9者で同運営委員会を構成しています。

当会議は、「北九州市の全ての関係者が力を合わせて環境モデル都市の推進を図っていく」を設立趣旨として宣言し、北九州市環境モデル都市行動計画(北九州グリーンフロンティアプラン)に掲げる取組の推進母体として活動を行っていきます。

#### (2) 北九州エコライフステージ実行委員会

本会は市民・NPO・事業者・行政で組織され、環境首都づくりを進めるための情報交流・情報発信及びエコライフの浸透を目的としています。

平成20年度では、「世界の環境首都を目指して～減らそうCO<sub>2</sub>未来のために～」をテーマに、市民・企業・NPO・行政が一体となった環境の環(わ)のさらなる拡がりに向けた活発な議論を行い、取組を進めました。

#### (3) 北九州市自然環境保全ネットワークの会(自然ネット)

自然ネットは本市の自然環境分野の保全・育成・創成・利用・整備に貢献することを目的として、あらゆる主体がら集まった組織です。会員同士の情報交換や研修を通じて、連携の強化と裾野の拡大を図っています。

平成20年度は、講演会やエコツアーの開催、緑化運動、絶滅危惧種保全活動など、17回にわたる様々な活動の開催や支援を行い、約2,600名の方が参加しています。

#### 3. 環境情報の収集・整備・提供

地域の環境特性や環境変化の把握などを行うため、生活環境、自然環境、快適環境などの環境情報の体系的な整備とネットワーク化を進め、信頼性のある環境情報が提供できるよう収集・整備を進めています。また、環境情報の提供にあたっては、専門的な環境情報をわかりやすく説明するとともに、インターネット等を活用したタイムリーな提供に努めています。

#### (1) 環境に関する年次報告書の作成と公表

毎年、本市の環境の状況、環境の保全に関する施策等をまとめた報告書「北九州市の環境」(本編・概要版)を

作成しています。本編には、巻末にデータ集として資料編(CD-R)がついて、有料(1冊:1,000円)で販売しており、概要版(30ページ程度)は無料で配布しています。また、本編、資料編、概要版の全文をホームページで公表しています。

#### 【販売店】

- ・政府刊行物北九州サービスステーション
- ・北九州市立大学(くびきのキャンパス)生活協同組合
- ・環境ミュージアム
- ・エコタウンセンター
- ・ブックセンタークエスト(小倉本店、黒崎本店)



H19年度版



H20年度版

#### (2) 環境局ホームページによる情報提供

環境に関する取組については、環境局ホームページに掲載しています。地球温暖化対策、ごみリサイクル、自然環境、環境保全、環境国際協力などの主要な取組をはじめ、本市の環境施策をわかりやすく説明しています。

#### (3) 環境測定データの速やかな情報発信

市内で実施している大気、水質などの環境測定データについては、平成18年度から、速報値についてインターネットを活用して情報発信しています。

#### (4) 自然・生き物に関する情報の整備

本市の自然や生物に関する情報を把握するため、自然環境調査の実施と、調査データの集約化を図っています。

#### (5) エネルギー情報デスク

省エネルギーや再生可能エネルギーに関する、補助金制度・融資制度等の情報を集約し、市ホームページ上に掲載するとともに、制度の利用方法などに関する一元的な窓口として、情報提供や相談への対応を行っています。